

報に矛盾しないのは次のような組み合わせである。

4.1 keV 吸収線	Cr <sub>XXIII</sub>
赤方偏移度	0.72±0.02
質量	太陽の1.7倍から2倍
半径	11から12 km
距離	6.3から6.7 kpc
(銀河中心もほぼ同じ距離にある)	
状態方程式	Bethe と Johnson の状態方程式など上の質量、半径と矛盾しないもの

この結果は銀河中心が太陽から7 kpc程度にあることを強く示唆している。これは Frenk と White (1983) が球状星団の分布から求めた  $d_{GC}=6.7$  kpc や Downs (1985) らが銀河中心に近い星の生成領域、いて座 B2 の水メーザーの固有運動から求めた  $7.1 \pm 1.6$  kpc などの値と良く一致している。またクロムは、X線バーストの原因となる核爆発で大量にできることが元素合成の計算からわかっている。これが対流によって表面近くに運ばれ質量放出によってむきだしになり、吸収線をつくることは、十分ありえることである。

良質のデータを供給してくれた宇宙科学研究所の松岡助教授など天馬グループのみなさんに感謝したい。本稿で使ったデータのうち特にことわらなかったものは宇宙

科学研究所の中村さんが解析したものである。また、私のうるさい議論に付き合ってくれた杉本教授をはじめとする野本ゼミのみなさんにも感謝したい。最後に、私は東京大学学生学術研究奨励金の援助を受けて昨年6月にデンマークのコペンハーゲンで開かれた IAU コロキウム No. 89 “Radiation Hydrodynamics in Stars and Compact Objects” に参加した。海外の色々な研究者と交流し強い刺激と学問的なインスピレーションを受けた。大変有意義な旅行であった。この奨励金制度に強く感謝する。また、この制度が一層拡充されることを希望する。

### 「星図星表めぐり」の訂正と追加

天文月報第67巻(1974年)第6号189頁右欄下から17行目及び日本天文学会編「星図星表めぐり」(誠文堂新光社, 1977年)第24頁下から8行目の“山本(1936)のカタログ”を、“山本 進(A. S. Yamamoto, 1936)のカタログ”とし、「星図星表めぐり」第106頁右欄，“山本一清の一覧表(カタログ)……24, 26, 28”を，“不確実な彗星の暫定一覧表……24, 26”とし、その次に“山本 進の彗星のカタログ……24, 26, 27”を挿入する。  
(筆者より依頼)

天体観測雑誌

# 天文ガイド

5月号 定価420円 4月5日発売

---

最新情報を満載/詳しく紹介します  
**ハレー彗星観測ガイド**

---

製造工程や技術などを解説  
**日本で初めてのハニカム鏡**

---

15年ぶり/観測ガイド  
**火星が大接近!**

---

富田先生の詳しい観測法  
**夏に打ち上げ 測地衛星**

---


アメリカの天文事情  
**パロマー山の天文ファン**

---

●新しい望遠鏡光学系 ● 5月の星空  
●天文学とコンピュータ…など情報満載

天文ガイド別冊

## 号外 PHOTO ハレー彗星



- これでハレー彗星が見える
- 情報を待つ巨大パラボラ
- 木曾の御岳山からハレーを追う
- 尾の変化日々刻々
- 胸高なるその姿
- たかがハレー、されどハレーほか

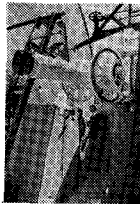
**絶賛発売中! 定価300円**

---

## STAR WATCHING

天文ガイド4月号臨時増刊

- 特別企画! ハレー彗星
- 火星7月に大接近
- オーロラを見にアラスカへ
- M天体Photo Album
- オーストラリアの巨大望遠鏡群
- 天体写真の特殊技術……ほか



**好評発売中! 定価580円**